

氏名（本籍）	廖 ^{リェオ} 力賢 ^{リーシェン} （台湾）
学位の種類	博士（経済学）
学位記番号	甲 経第 21 号
学位授与年月日	平成 29 年 3 月 17 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項
論文題目	日本と台湾における消費者の購買決定に関する研究—健康食品を例に一
論文審査委員	主査 原口 俊道 教授 副査 大久保幸夫 教授 副査 岩永 忠康 特任教授（中村学園大学流通科学部）

内容の要旨

平成 28 年 10 月現在における廖力賢君（以下「著者」と記す）の研究業績には、既刊査読制学術論文が 15 点、さらに現在投稿中の査読制学術論文が 2 点ある。国内外の学会・国際学術研究会での口頭報告が 15 回となっている。このたび著者が提出した博士学位請求論文（題目「日本と台湾における消費者の購買決定要因に関する研究—健康食品を例に一」）は、既発表論文や学会報告をベースとして大幅に加筆し、体系化したものである。

提出された論文は、本体の総頁数が A4 横書きで 171 頁ほど、字数の総計は約 18 万文字である。概要、6 つの章、参考文献、添付資料（日本語と中国語のアンケート調査票）などから構成されており、上記の題目において一定の体系性を有している。

概要では、研究目的、研究の重要性、研究課題、研究対象、研究の方法、研究結果、本論文の構成などについて述べている。本研究の意図は、従来の研究で援用されてきたモデルでは解決困難な課題や問題を解決するために新しいモデルを構築し、「日本と台湾において健康食品に対する消費者の購買決定への影響要因」を研究することにある。

本研究課題は、日本と台湾において健康食品に対する消費者の個人属性が内部要因と外部要因に及ぼす影響を分析し、そして内部要因と外部要因が購買決定に及ぼす影響を分析することによって、「日本と台湾における健康食品に対する消費者の購買決定への影響要因」を解明することにある。

本研究課題を解明するために、主問と 3 つの副問を設定している。研究方法は、まず膨大な資料収集と先行研究の整理を実施し、それらの結果に基づいて分析モデルとアンケート調査票を作成している。そして回収した調査票を統計分析し、6 つの仮説の検証を踏ま

えて3つの副問と主問への解答を行っている。

第一章「序論」では、研究背景、研究動機、日台における健康食品に関する現状、健康食品産業の現況把握、消費者市場の展開などについて記述している。

第二章では、健康食品に対する消費者の購買決定への影響要因（内部要因と外部要因）に関する先行研究を整理し、問題点を抽出している。そして、新たな分析モデルと仮説を構築している。

第三章では、アンケート調査の概要、変数の操作性及び測定評価を説明し、サンプルの基本情報を示している。

第四章では、日本と台湾でのアンケート調査結果に基づいて、仮説1～仮説6を検証している。

第五章では、日本と台湾での分析結果に基づいて、仮説1から仮説6の検証結果に対する考察を行っている。

第六章「結論」では、副問と主問への解答、研究の貢献、研究の独創性、今後の展望及び残された研究課題について述べている。**結論**では、①日・台の健康食品に対する消費者の個人属性が内部要因の3つ（商品知識、知覚評価及び関与程度）や外部要因の3つに（包装形態、情報源及び価格要因）に影響を与えること、②学術的な報道や医学雑誌が日・台の健康食品消費者の購買決定に影響を与えること、③安い価格が日・台の健康食品に対する消費者の購買決定に影響を与えないこと、④内部要因は外部要因を通して日・台の健康食品に対する消費者の購買決定に影響を与えること、などが判明したと述べている。さらに、価格が多少高くても、日本は商品の保証やアフターサービスを重視し、台湾は商品の効能を重視することが判明したと述べている。

審査結果の要旨

審査の結果、博士論文のテーマを「日本と台湾における消費者の購買決定に関する研究—健康食品を例に一」に修正することになった。

1. 研究スタイルと論理構成

本論文は、健康食品に対する消費者の購買決定の研究について、アンケート調査のデータを分散分析・回帰分析・相関分析などの統計手法を駆使して解析し、仮説の検証に基づく実証分析を行っている。その論理構成は、第一章：序論、第二章：先行研究の整理、第三章：研究方法、第四章：アンケート調査の分析結果、第五章：仮説の検証と考察、第六章：結論から構成され、したがって、本論文は基本的で正当な論理構成で展開されている。

2. 実証研究系博士論文の評価項目

実証研究系博士論文の評価項目として、つぎの2点を指摘することができる。第1は、構築された分析モデルのオリジナリティー性、第2は、検証方法の妥当性である。

まず、第1の分析モデルのオリジナリティー性についてである。従来の消費者行動の研究では個人属性や影響要因と購買決定を組み合わせたやや単純な分析モデルが構築・使用されることが多かったが、本研究は影響要因を内部要因と外部要因の2つに区分し、個人属性と内外の2つの影響要因と購買決定を体系的に連結させ、分析モデルとして成立させている点で、オリジナリティー性が極めて高いと評価できる。

次に、第2の検証方法の妥当性である。本研究では、問題意識に基づき6つの仮説が立てられ、アンケート調査に基づく多変量解析（分散分析・回帰分析・相関分析・因子分析・パス解析など）によって検証されている。検証方法は、仮説に対応するように適切に使用されている。分析方法に関しては、適切であると認められる。

3. 研究の独創性

- (1) 健康商品に対する消費者の購買決定に関する研究は少なく、特に健康食品の消費者購買決定に関する国際比較（日本と台湾）を行った研究はない。そのために先駆的研究として評価できる。したがって、マーケティング分野をはじめ多くの分野から意義がある研究と思われる。
- (2) 本論文は、消費者の購買決定に至るプロセスを個人属性—影響要因—購買決定の3要素の相互作用から検証しており、特に、消費者の購買決定プロセスの影響要因を内部要因と外部要因に分けて検証した分析に独創性がみられる。
- (3) 著者は、医療関係の実務に携わった経験をもとに、多くの既存論文に依拠・検証しながら健康食品の購買行動決定の仮説検証を行っており、まさに実践・経験に裏付けされた研究に説得力がある。

4. 研究の貢献

- (1) 学術的貢献
「消費者の購買行動決定プロセス」の影響要因を内部要因と外部要因に分けて検証したことで、「消費者の購買行動決定プロセス」研究を深化させている。
- (2) 実務的貢献
 - ①日本・台湾における健康食品について、種類・定義・関係団体等を比較しながら簡潔に整理・記述しているため、両国の国民にとって健康食品に対する知識や理解を高めている。
 - ②日本・台湾における健康食品業界のマーケティング戦略の実践に貢献し、それによって健康食品業界や関連業界等に対する社会経済的貢献（健康医療の知識向上への社会的貢献や業界拡大による企業利益・労働力創出への経済的貢献）に寄与している。
 - ③日本・台湾における国民が健康食品に対する知識や理解を深めることによって、国民の健康管理に貢献している。

5. 研究の課題

- (1) 消費者の購買決定プロセス（本論文：図表 1-2 の消費者購買行動の構成要素モデル）

に「購買後の行動」が欠落している。「購買後の行動」の項目を追加することによって、消費者購買行動のサイクルが確立され、商品の継続的な購買に向けての「消費者の購買決定プロセス」を十分に把握することができる。

- (2) 消費者の購買決定に至る影響要因の外部要因（包装形態・情報源・価格）に商品品質、サービス項目が不足している。マーケティングにおける購買決定要因（商品購買に対する消費者利益を評価する指標）には、価格・品質・サービス等が重要な要因としてあげられている。
- (3) 論文の文章全体の表現力（字句の使い方・表示等）に問題点がある。

6. 今後の展開

- (1) 消費者の購買決定プロセスに「購買後の行動」を取り入れた分析を行うこと。また、消費者の購買決定に至る影響要因（外部要因）として価格・品質・サービス等を取り入れた分析を行うこと。
- (2) 健康食品をさらに3つ（機能性食品、特殊栄養食品、栄養補助食品）に分けて分析・研究することによって、経済発展段階別ないし年齢別等の健康食品に対する理解度や購買行動に差異がみられ、より充実した研究になると思われる。

7. 結論

本論文は以上の点を踏まえ、学位論文に値するものと判断した。

本審査委員全員は、日本語文章を修正することを条件として、本論文の著者が博士（経済学）の学位を授与されるに十分値すると判断した。